

47-1 提灯殺し？とうれしい地蔵（距離約 6.5km）



「提灯殺しのガード」

**【道順】**

JR 田町駅→1 等水準点 No8→1 等水準点 No15-005→札の辻橋→新芝運河→低いトンネル  
「提灯殺しのガード」→高輪大木戸の几号水準点→泉岳寺→二本榎・高輪消防署出張所→  
桂坂→高輪海岸の石垣石（高輪二丁目交差点）・高輪神社→桂坂→洞坂の窪地→東禅寺（イ  
ギリス大使館跡）→高輪公園・1 等水準点 No9→高輪プリンスホテル→光福寺（うれしい地  
蔵）→般若苑と畠山記念館本館→池田山（公園）→東京メトロ高輪台

## ルートマップ



### 【街歩き解説】

・「提灯殺しのガード」：正式名称は高輪橋架道橋という。その高さは低いところで1.5m。タクシーの屋根の上にある（提灯状の）広告塔が、ぶつかって壊れてしまうので、これを少し切断したタクシー会社もあって、この車を提灯殺しという。ここ以外は訪ねたことはないが、都内にはこうしたタクシーの車高ギリギリの名所？が4箇所あるようで、いずれもガード下である。

1. 大田区中央2丁目ガード
2. 高輪橋架道橋
3. 足立区柳原東武線ガード
4. 江東区北砂越中島貨物線ガード



高輪大木戸と几号水準点

・高輪大木戸：宝永7年（1710年）に、東海道から江戸府内の入り口として、また、南の出入り口として設けられた大木戸の跡である。

街道の両側に築かれた幅約20メートルの土塁の間に木戸を設け、明け方六ツに開き、暮れ六ツに綴じて、治安の維持と交通規制の役割を果たしたという。現在の木戸跡には両脇に長さ五間（9メートル）、幅四間（7.2メートル）、高さ一丈（10尺＝3メートル）の石垣が残る。この間に柵と門が設けられていた。

伊能忠敬は、全国測量を西に進めるにあたって基点とした。（伊能忠敬）測量日記には、北行きなら千住宿や板橋宿、南行きでは品川宿で送迎が行われ、そこには佐原伊能家、同地頭そして住まいする黒江町や浅草司天台の面々が大勢集まった。

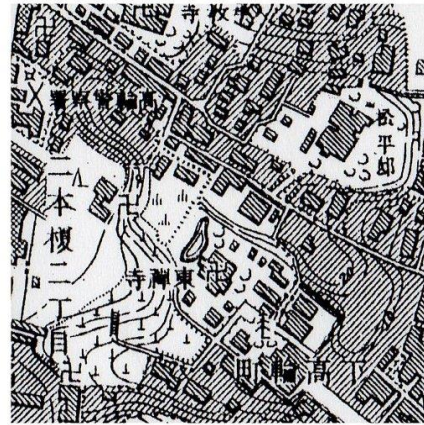
確かめるのは、やや危険であるが、車道に面して明治初期に設置された（刻まれた）几号水準点がある。



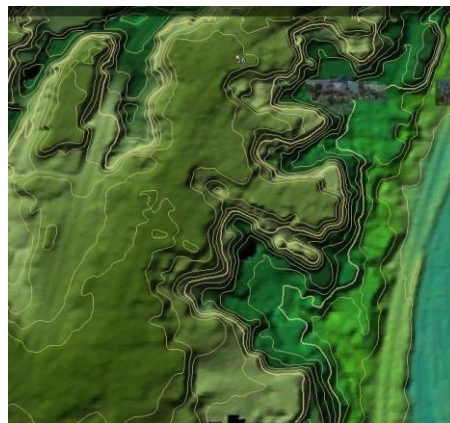
泉岳寺・高輪消防署出張所

・洞坂の窪地

東禅寺裏には、どこに向かうにも坂を上らなければならない窪地になった宅地があるが、住まいする人に支障があるので詳細は書かない。



S63 修正 1/10,000 地形図「渋谷」・M42 1/20,000 地形図「品川」



デジタル標高データからは、いくつか窪地が発見できる。  
(google Map)

・東禅寺：安政5年（1858）7月に日米通商条約が、続いて英国とも締結され、翌6年6月には、東禅寺にわが国最初のイギリス公使館が置かれ、イギリス初代公使オールコックらが駐在した。東禅寺では、文久元年（1861）5月水戸浪士の襲撃事件、翌年には護衛役の日本人とイギリス人水平が襲撃される事件があった。その東禅寺は、明治6年（1873）ごろまで公使館として使用された。今も奥書院と玄関が当時のようすを残していて、2010年2月国の史跡に指定されている。



幕末の東禅寺（「F・ベアト日本歴史写真集」より）



池田山（公園）・ゆうれい地藏

・**畠山記念館本館**：畠山記念館は、株式会社荏原製作所を興して実業界に名を馳せた畠山一清（1881—1971）により創立された。

畠山記念館では、茶道具を中心に、書画、陶磁、漆芸、能装束など、日本、中国、朝鮮の古美術品を展示公開しています。隣接していた般若苑は取り壊した。

### 池田山（公園）

旧岡山池田藩下屋敷跡を整備した鑑賞型公園。高低差を生かした池泉回遊式。

・**高輪（という地名）**：古書には「土地往還の縄手道して、すこぶる高き所になれば・・・」とあって、高台にあるまっすぐな道のことだという。しかし、地名の昔といっても、文字のない時代から、文字を当て、条里のころに整理され、再び自然にもどり・・・、と平坦ではない。その昔、地形をして言われたころの、（タカ）ハナワすなわち、土の高い部分（ハナワ：塙）、土に低い部分（アクツ：坏）を源とするのだろう（柳田国男「地名の研究」）。

+\* \* \*+ オフィス 地図豆 yamaoka mitsuharu +\* \* \*+